

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>鈴木 まや (会計担当幹事) (すずきまや)</p>	<p>所属</p>	<p>関西学院大学</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>社団法人日本心理学会 味嗅覚と行動の研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 会員 約20名 (うち認定心理士 名) 非会員 約20名 (うち認定心理士 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>2010年9月21日第74回日本心理学会大会のワークショップ 「味わうこと、香ること、食ること」と題し、神戸松蔭女子学院大学坂井信之の企画にて実施した。話題提供者に、関西国際大学の堀尾強、東北大学の阿部恒之、広島修道大学の今田純雄を迎え、関西学院大学鈴木まやが指定討論者となり、味嗅覚研究の様々な切り口を提案した。味嗅覚をテーマとしたシンポジウムが開催された関係もあり、多数の会員が参加し、活発な討議を行うことができた。</p> <p>2011年3月4日 筑波にて研究会と見学会を実施 筑波大学綾部早穂の企画にて、研究会と独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構食品総合研究所の見学会を実施した。筑波大学で実施した研究会には、食品総合研究所の研究員を講師に迎え、日下部裕子による味覚の分子生物学における先端的な研究と、広く心理学一般に関わる食品のリスクコミュニケーションについての日野明寛による講演を実施した。企業からの参加者が多く、活発なディスカッションを行うことができた。また、その後の見学会では、実際の食品の試食も交え、貴重な経験をすることができた。味嗅覚に関する心理学研究が基礎から応用まで密接にかかわって行われていることを実感することのできる会となった。</p>		